

10

ナルニア国物語 2

ライオンと魔女と衣装だんす

C・S・ルイス

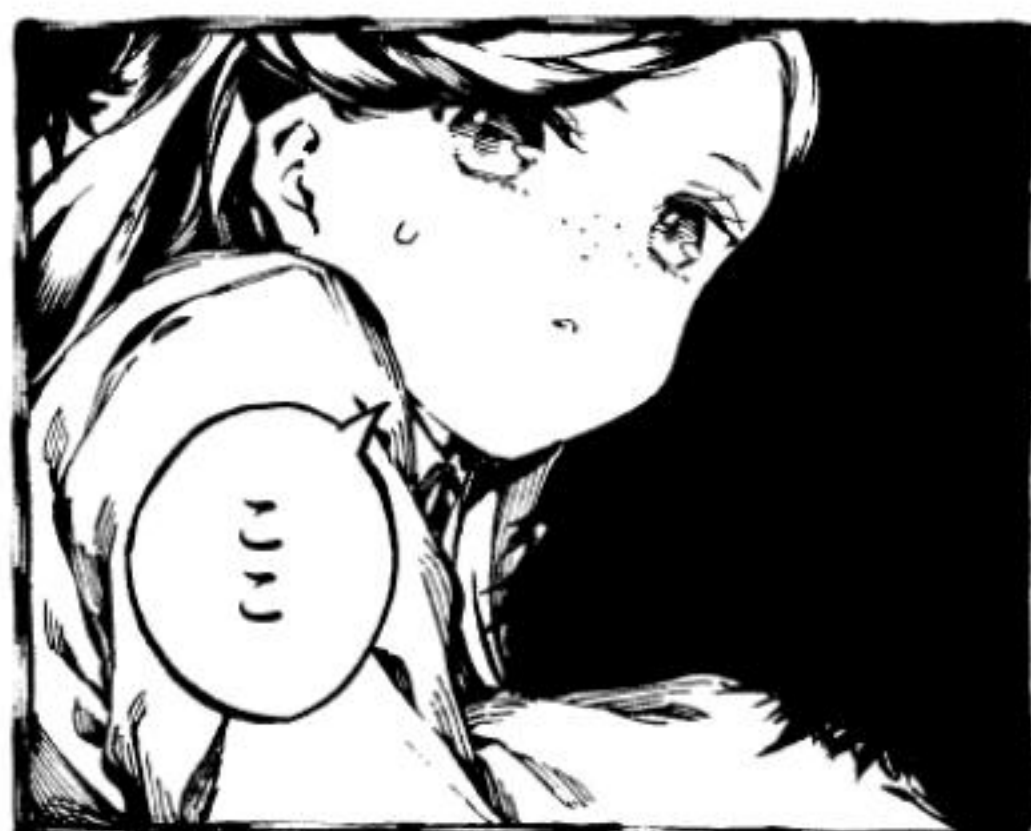
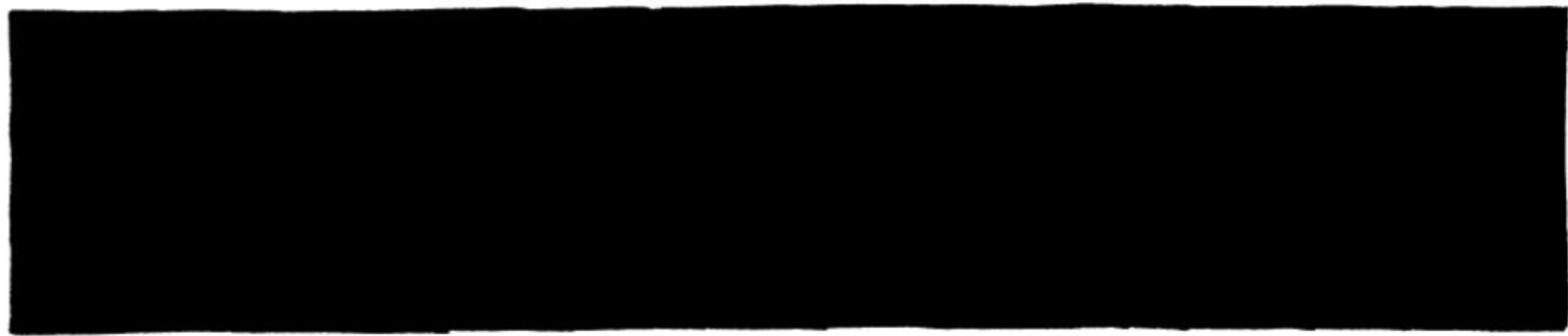
土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)



第10話 森の中へ(前編)



さつさと
見学の人たちを
連れてどつか
行っちゃってくれ
ればいいのに

マクレディ
さん



それに

樟脳^{しょうのう}の
ひでえにおい!

ここにかかっている
コートのポケットに
いっぱい
はいってるのよ

きつと

虫よけに

なんか背中が
チクチク
するんだけど

それに

寒くない?

そういえば
寒いな

それに……



なんだこれ



濡れてるぞ



ここ

いったい
どうなってんだ？



ぼくが
すわってるとこ

なんか
濡れてるんだ



どんどん
ひどく
濡れてくる

外に
出ようよ



もう
行っちゃった
だろ



うわっ！

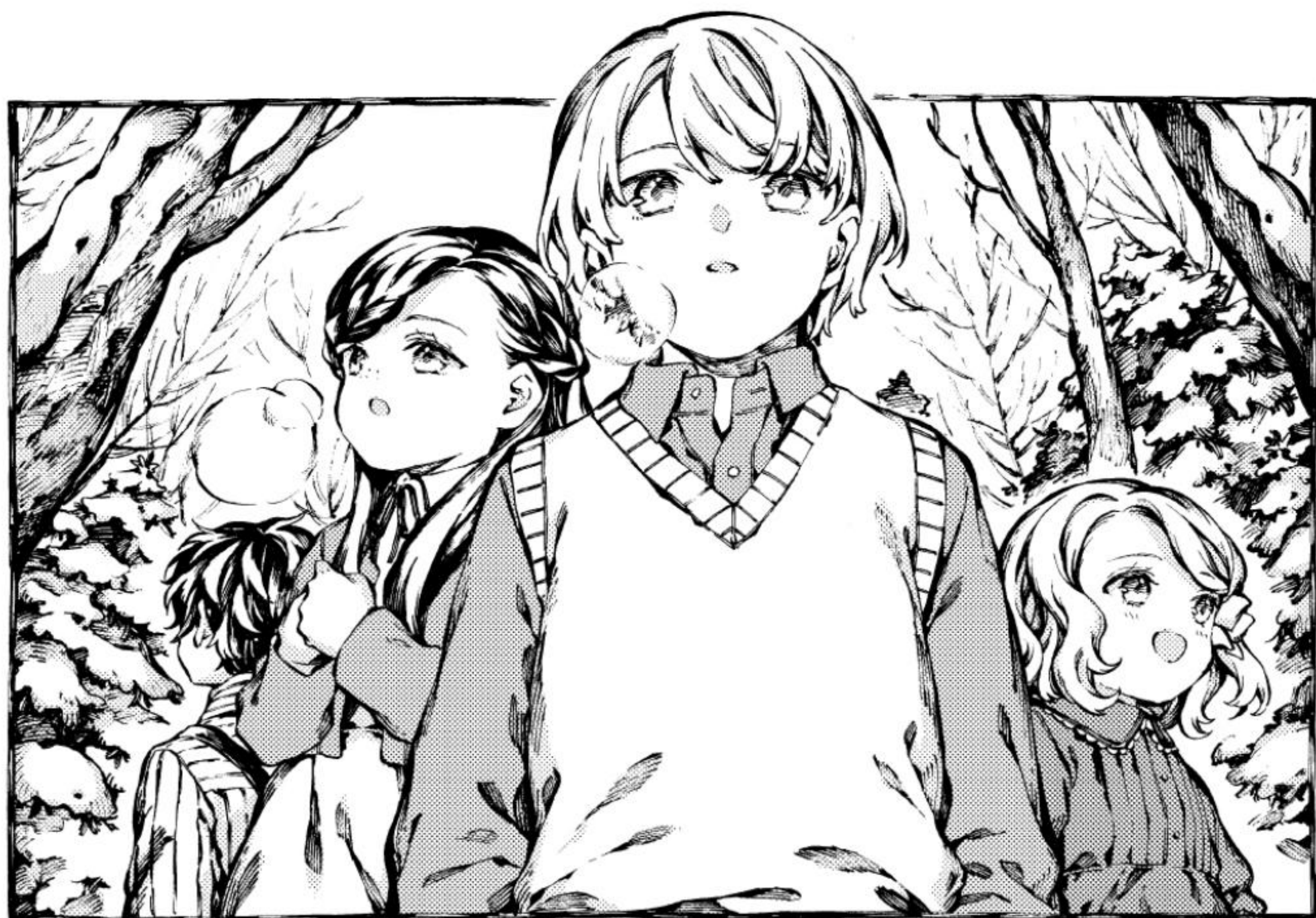
どうした？



















もちろん

そういう
理屈なら
わかる

しかも

もとあった
衣装だんすから
外に出さない
かぎり

誰もコートを
持ち出したなんて
言えないよね

この国は丸ごと
衣装だんすの中に
あるみたいだし









街灯のところへ
行くつもりなら――

もう少し左の方向へ
行ったほうが
いいんじゃないのかな



えーッ
そうか



—それなのに



おまえは
ルーシーがうそを
ついてるような
口をきいたんだ



やっぱり
来たことが
あったんだな

ルーシーが
森でおまえに
出会ったって
言ったとき





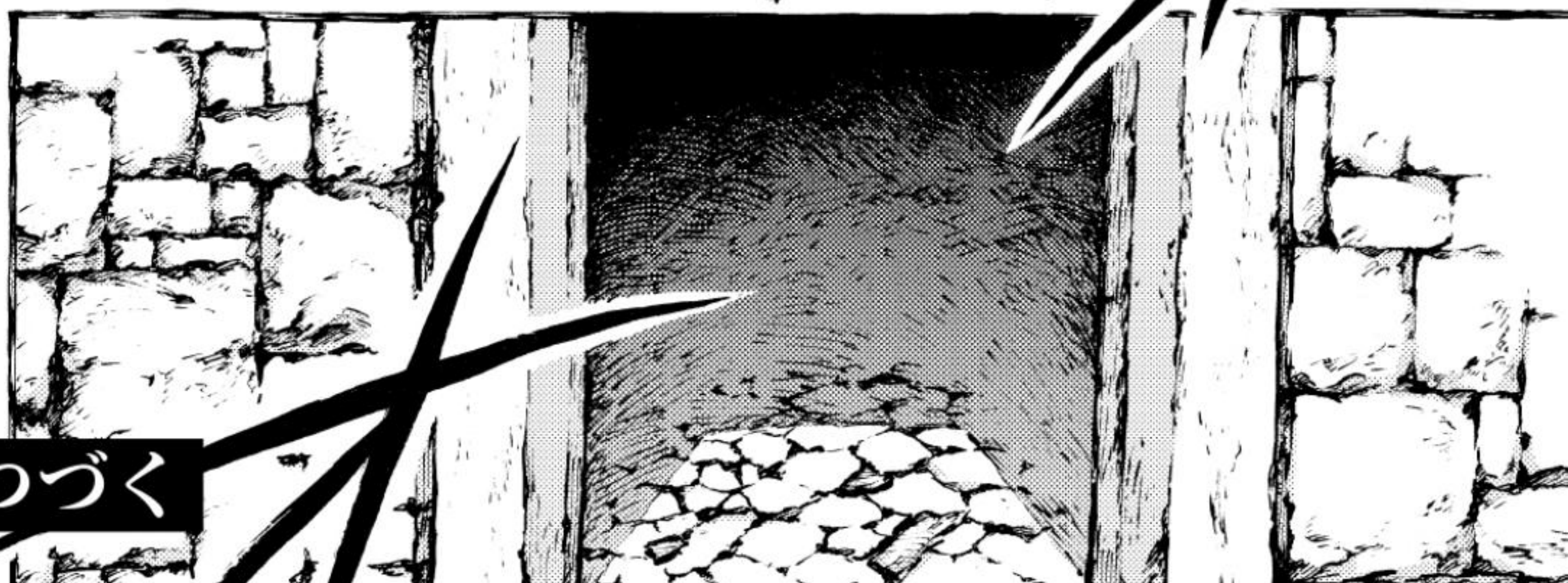
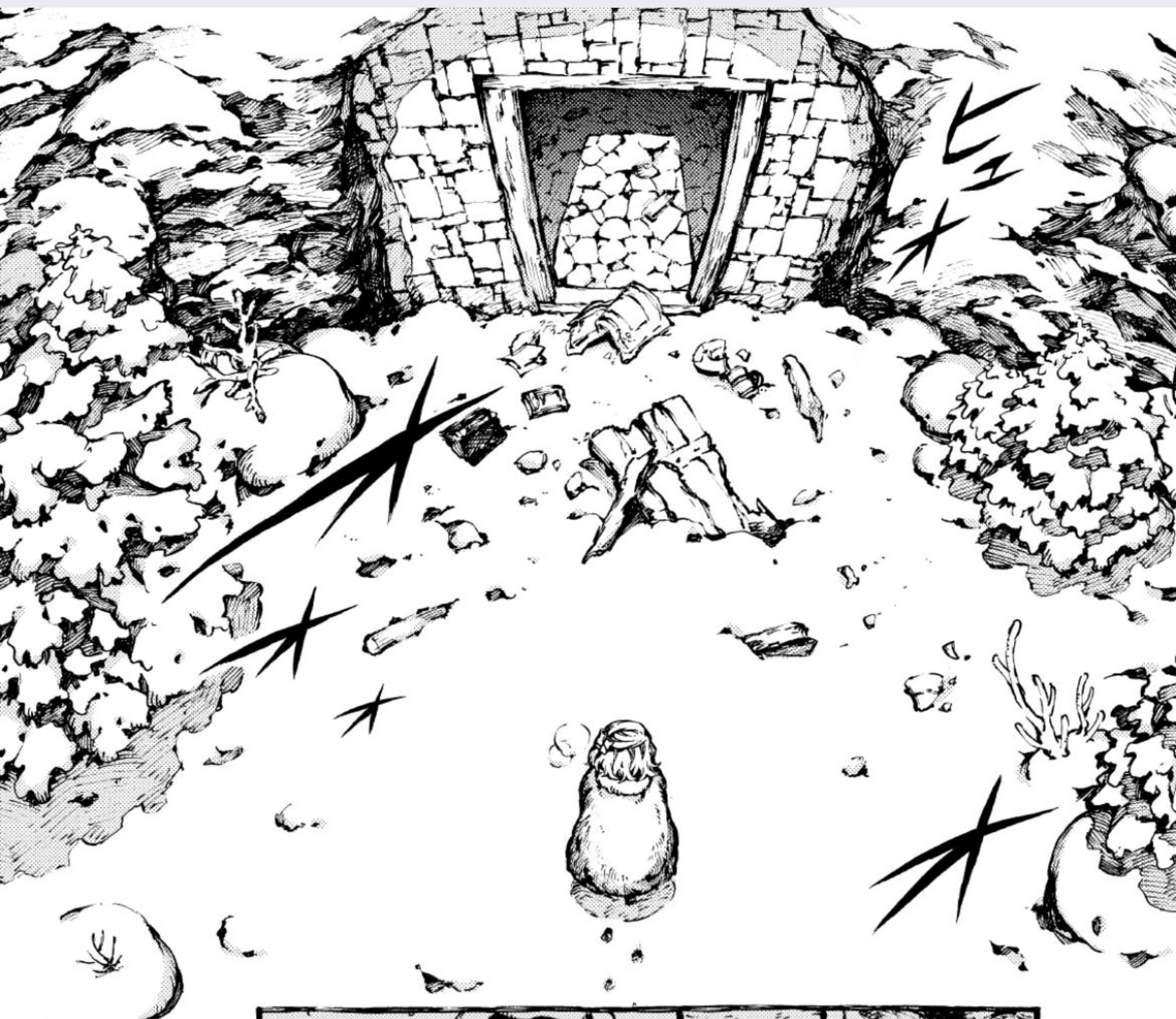
高慢ちきで
独りよがりの
いい子ぶりっ子め











つづく